

令和2年9月11日
東京厚生信用組合

第12回 経営諮問会議の概要について

当信用組合は、理事会の諮問機関として、外部有識者で構成される「経営諮問会議」を設置しております。

本会議は、外部有識者より経営全般について助言・提言をいただき、これを経営に反映させることにより、経営の客観性・透明性を確保し、コーポレート・ガバナンスを強化することを目的としております。

過日、「第12回経営諮問会議」を開催いたしましたので、その概要につきまして、下記のとおりご報告させていただきます。

なお、第13回会議は、令和3年1～2月頃に開催する予定です。

— 記 —

1. 日 時 令和2年8月3日（月） 10:00～12:00

2. 場 所 東京厚生信用組合 本店

3. 出席者

（経営諮問委員）（五十音順、敬称略）

鈴木 豊 （公認会計士・税理士）

傳田 純 （東京都商工会連合会 専務理事）

西岡 修 （社会福祉法人 白十字会 白十字ホーム ホーム長）

（東京厚生信用組合）

田代 智彦（理事長）

中嶋 勉（常務理事）

癸生川 徹（常勤理事・審査部長）

平山 圭樹（常勤監事）

杉本 康幸（企画部長）

辻田 浩之（企画部付部長）

4. 田代理事長挨拶骨子

- ・コロナ禍の中、業績は少し落ち着いているが健闘しています。
- ・一昨年度、昨年度と中堅職員の退職が相次ぎましたが、今年度は、8名の新入職員を

迎えることができました。また、4月には部店長以下の大幅な異動を行い、役職員一丸となって、業務に邁進しているところです。

- ・本日は、令和元年度決算概要、令和2年度事業計画、第三次経営強化計画の履行状況、新型コロナウイルス感染拡大への対応状況等について、ご説明させていただき、その後、委員の皆様から忌憚のないご意見等をいただきたく存じます。

5. 当組合からの説明内容

- ・杉本企画部長から、以下の議題について、資料に基づき説明いたしました。

- ①令和元年度決算概要
- ②令和2年度事業計画
- ③第三次経営強化計画の履行状況（令和2年6月末）

- ・中嶋常務から、以下の議題について、資料に基づき説明いたしました。

- 新型コロナウイルス感染拡大への対応状況

6. 会議における主な意見

出席委員の皆様から、以下のようなご意見・ご提言をいただきました。

- 令和元年度決算は、役職員一丸となった努力の結果であると思う。経営強化計画の策定当初と比べると、業績も上がってきている。
- 役務取引等収益の拡大に向け、不動産事業会社との提携を行い、建物建築に関する紹介手数料を収受していく方針とのことだが、自分がよく知る多摩地区においても施設等の建築に対する需要はあるので、推進していただきたい。
- 令和2年度は、「新型コロナウイルス感染拡大対応関連事項」が最大の課題だと思われる。他の金融機関では、4年分の運転資金を融資したという話もあり、今後は、リスク問題に対する対応や、収益及び不良債権等への影響が重要課題となると思われるので注意が必要である。
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響は常時チェックしていく必要がある。自分のクライアントでは、この3か月で瀕死の状態となっている先も多く、来年3月頃の状況が懸念される。
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響については、業種毎に違いもあり、状況を的確に把握していく必要がある。そして、事業の改善ができるようなアドバイスが必要である。
- 中小企業にとって事業の継続は重要課題であり、当信用組合としても、事業再生や事業承継について積極的に取り組んでいただきたい。商工会や商工会議所等も種々対応をしているので、協力できればと思う。
- 社会福祉法人では、入所系に比し、訪問系や介護系の施設は、職員が減少し、人材の確保が大きな課題となっている。安全確保の問題もあり、新型コロナウイルス感

染拡大をきっかけに、このような施設が業務を中止することも考えられる。

- 人材育成は、どのような組織も同様の問題を抱えていると思われる。事務リスクへの対応についても言えるが、モチベーションのアップやスキルアップにはお金をかけてもよいのではないか。
- 不良債権比率は以前より低下してきているが、一層の削減に向け努力していただきたい。

7. 田代理事長からの回答

本日は、大変貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。今後の業務活動に活かしていきたいと思えます。

以上